

【令和5年度】

事業報告及びその付属明細書

自 令和5年3月1日

至 令和6年2月28日

一般社団法人Next Education

【目次】

A トリセツ流こども食堂運営

B ふれあい自然塾ひぜんで体験イベント

C クリスマスイベント

D Youtube活動やセミナー・勉強会の開催

E 小学生英語のドリル開発

【活動詳細】

A「地域の明日へ: トリセツ流こども食堂オープン」

「トリセツ流こども食堂」を1年間運営した感想と今後の展望についてまとめました。

・1年間の振り返り

この1年間、「トリセツ流こども食堂」を通じて、多くの子どもたちや地域の方々と関わる機会を得ました。最初はプレオープンという形でスタートし、地域の皆さんの協力を得ながら徐々に形を整えてきました。

・地域とのつながりの深化

地元企業や支援者の方々のご協力により、継続的な運営が可能となりました。食堂を通じて地域の方々と子どもたちが自然に交流し、地域のコミュニティの一部としての役割を果たすことができました。

・子どもたちの変化

初めて訪れたときは緊張していた子どもたちも、今では安心して食堂を利用するようになりました。特に食事を通じた交流の中で、自分の意見を言えるようになったり、新しい友達を作ったりする姿が見られるようになりました。

・課題の発見

1年間運営する中で、食事の提供だけでなく「学びの機会」や「体験活動」の場を増やす必要性を感じました。特に経済的な事情で塾に通えない子どもたちの学習支援や、職業体験などの機会提供のニーズが高いと実感しました。

実際2023年7月29日に体験活動の場を提供した結果、参加者のこども・保護者全ての人が満足とのアンケート結果になったので、さらなる機会の創出が課題となった。

<今後の展望>

今後は、以下の3つの方向性で活動を発展させていきます。

1 「学び」の支援を強化する

- ・放課後学習支援プログラムの導入
- ・ボランティアの大学生や地域の大人による学習サポート
- ・オンライン教材の活用

2 「経験」の機会を増やす

- ・地元企業と連携した職業体験プログラム
- ・農業体験や自然体験など、実践的な学びの場の提供
- ・クリエイティブな活動（アート、プログラミングなど）への挑戦の場

3 「持続可能な運営」のための資金調達の強化

- ・ふるさと納税やクラウドファンディングの継続
- ・企業スポンサーの獲得
- ・自主財源確保のためのyoutube活動やイベントやワークショップの開催

この1年間の経験をもとに、単なる「こども食堂」ではなく、子どもたちが「学び」「経験」を通じて成長でき、また心安らげる「第三の居場所」へと進化させていきます。地域全体で子どもたちを支える仕組みを作ることで、より多くの子どもたちの未来を明るくすることを目指していきます。

B「7月29日いろは島ふれあい自然塾イベントレポート」

7月29日（土）、夏の青空が広がる中、国民宿舎いろは島ふれあい自然塾で行われた体験イベントが、地域の子どもたちや保護者、さらには地域住民の協力も得て、大盛況のうちに幕を閉じました。

このイベントでは、ピザ作り、木工クラフト作り、ハーバリウム作りといった体験が行われ、参加者全員が心から楽しみ、大満足の日となりました。

朝、唐津駅から送迎バスに乗った参加者たちは、会場へと向かいました。到着すると、目の前には広がる青い海と自然豊かな景色。受付を済ませると、それぞれの体験ブースへと足を運び、ワクワクした表情で活動を始めました。

<ピザ作り体験：自分だけのオリジナルピザに挑戦>

イベントの目玉のひとつであるピザ作りでは、最初にスタッフからペットボトルで作る生地の作り方や焼き方の説明をしました。子どもたちは「ピザってこんな風に作るんだ！」と興味津々。

ペットボトルをふりふりする作業では、みんな半信半疑でふっていましたが時間が経つにつれて生地が膨らんでくるのを見て、みんなびっくりしていました。

トッピングでは、地元で採れた新鮮な野菜やチーズ、ハム、ベーコン、などの具材を用意し、それぞれが好きな組み合わせでピザを作りました。

「ぼくはチーズたっぷりにする！」「私はトマトいっぱい乗せよう！」と、子どもたちは思い思いのピザ作りを楽しんでいました。

焼きあがると、辺りには香ばしい香りが漂い、「おいしそう！」と歓声が上がりました。一口食べると、「カリカリでおいしい！」「お店のピザよりおいしい！」と大興奮。中には「おうちでも作りたい！」と話す子もおり、ピザ作りの楽しさをしっかり体験できた様子でした。

<木工クラフト作り体験：ものづくりの楽しさを発見>

木工クラフト作りのコーナーでは、地域の木工職人さんが講師となり、木のぬくもりを感じながら、貯金箱を作りました。

最初に材料が配られると、「どんな色にしようかな？」と、子どもたちは頭を悩ませながらデザインを考えていました。

釘や木工用ボンドを使って組み立てる作業では、「難しい！」と言いつつも、地域の方々や保護者の手を借りながら、一生懸命作業を進めました。

完成した作品は、それぞれの個性が光るものばかりで子どもたちはとても満足げな表情を見せていました。

「普段はゲームばかりだけど、今日はものづくりの楽しさを知った」と話す子もおり、貴重な体験となったようです。

<ハーバリウム作り体験：自分だけの美しい作品を！>

ハーバリウム作りのコーナーでは、色とりどりの花や葉、ドライフラワーをガラスボトルに詰めて、オリジナルのインテリアを作成しました。

最初に講師から、「花の配置を工夫すると、より美しく仕上がるよ」とアドバイスをもらうと、子どもたちは「どうしようかな？」と真剣な表情に。

ピンセットを使って慎重に花を配置し、専用のオイルを注ぐと、一気に作品が完成。光にかざすと、キラキラと輝く美しいハーバリウムができあがりました。

「すごくきれい！」「お部屋に飾るのが楽しみ！」と大喜びする子どもたち。保護者の方も「私も作ってみたかった！」と夢中になって取り組む姿が印象的でした。

<地域との交流も深まる>

このイベントは、地域住民の協力もあり、大変スムーズに進行しました。

木工クラフト作りでは、地元の職人さんが手ほどきをしてくれ、ピザ作りでは地域の方々が焼き方を教えてくれるなど、子どもたちと大人と一緒に楽しめる時間となりました。

<参加者の声：「また来年も参加したい！」>

イベント終了後、子どもたちも保護者も口をそろえて「楽しかった！」「また来年も来たい！」と話していました。

「ピザ作りが楽しかった！」「木工クラフトは難しかったけど、すごく満足！」と、それぞれの体験を振り返りながら笑顔で帰っていく姿が印象的でした。

スタッフも「ここまで盛り上がると思わなかった」と驚きながらも、無事にイベントが成功したことを喜んでいました。

C「子ども食堂 クリスマスイベントレポート」

2023年12月クリスマスイベントを開催した。

この日は特別な企画として、**「スノードーム🌟作り」を行い、子どもたちはワクワクしながら会場に集まりました。

さらに、シチューやチキンソテーなどの美味しいクリスマスメニューも提供され、参加者みんなが楽しく、温かい時間を過ごしました。

<スノードーム作り体験：世界にひとつだけのオリジナル作品>

イベントのメインとなる「スノードーム作り」では、まず材料が配られ、スタッフから作り方の説明をしました。

透明なガラスの容器に、小さなサンタやツリーのフィギュア、キラキラのラメや雪の結晶を入れ、それぞれの個性が光るデザインを考えました。

「どんなデザインにしようかな？」

「もっと雪を入れたい！」

「私のスノードーム、すごく可愛くできた！」

と、子どもたちは大はしゃぎ！

水を入れてしっかりフタを閉めると、ひっくり返すたびに雪がふわふわと舞い落ちる幻想的なスノードームが完成しました🌟

スタッフや保護者の方も「とても素敵！」「おうちに飾るのが楽しみだね！」と声をかけ、子どもたちは誇らしげな表情を見せていました。

「おばあちゃんにプレゼントする！」と話す子もいて、心温まる時間となりました。

<クリスマス特別メニューで心もお腹也大満足！>

スノードーム作りが終わると、待ちに待ったクリスマス特別メニューの時間！

温かい料理がテーブルに並ぶと、子どもたちは目を輝かせながら「いただきます！」と元気よく挨拶しました。

🌲 チキンソテー：香ばしく焼き上げたジューシーなチキン！

🌲 シチュー：寒い日にぴったり！クリーミーで心まで温まる味わい🌟

🌲 ポテト：子どもたちに大人気！ホクホクのフライドポテト🍟

🌲 フルーツポンチ：カラフルなフルーツがたっぷり！さっぱりとしたデザート🍓🍎🍌

「チキンがすごく美味しい！」「シチュー、おかわりしてもいい？」「フルーツポンチ、最高！」

と、あちこちから喜びの声が聞こえてきました。

特に「おかわり大歓迎！」という言葉に、何度もおかわりをする子もいて、スタッフも笑顔で対応していました。食べ終わる頃には「お腹いっぱい幸せ〜！」と大満足の表情でした🌟

<子どもたちの笑顔があふれる温かい時間>

今回のイベントにも、たくさん子どもたちや保護者が参加し、地域の方々もサポートに駆けつけてくれました。

スノードーム作りでは、「ここをこうするともっとキレイになるよ!」と大人がアドバイスをしたり、食事の時間には子ども同士が「一緒に食べよう!」と誘い合ったりと、交流が深まる場面が多く見られました。

また、保護者の方からも「子どもが楽しそうで良かった!」「美味しいご飯まで用意してもらえて感謝です」との声が聞かれ、子どもたちにとっても、大人にとっても心温まるイベントになりました。

<参加者の声:「また来年も楽しみ!」>

イベント終了後、子どもたちは満足げな表情で、「またスノードーム作りたい!」「来年も来たい!」と話していました。

中には、「今日のシチュー、おうちでも作ってみる!」という子もいて、楽しい思い出だけでなく、新しい経験も持ち帰ることができたようです。

スタッフも「今年最後の子ども食堂が、こんなに盛り上がり嬉し!」と話し、無事にイベントを終えられたことを喜んでいました。

D Youtube活動やセミナー・勉強会の開催

1. YouTubeでの活動

特別企画「共通テスト対策ライブ」

ライブ配信でタイムリーな指導

共通テスト1ヶ月前や直前期には、土曜日の夜にライブ配信を行い、過去問を使った実践的な解法講座を実施。問題を解くプロセスをリアルタイムで示しながら、「時間配分」や「解き直しのコツ」など受験のノウハウも伝授しました。

ライブ中はチャット欄が活気づき、参加者同士で「ここが分からなかった」「この問題はこういうパターンだ」と情報を共有。受験期の不安感を解消する場にもなっていたようです。

2. オンラインセミナー（ウェビナー）

(1) 双方向型セミナー「疑問をその場で解決!」

少人数制で参加者全員が発言できる構成。Zoomなどのオンライン会議システムを使い、定員を20名ほどに絞って開催。事前に「苦手単元アンケート」を取り、その内容をもとにセミナーのテーマを決定しました。

例えば、確率・整数問題など「独学ではつまづきやすい」とされるトピックにフォーカス。画面共有機能を使って問題を出し合い、受講者がわからない箇所をリアルタイムで質問していくスタイルで進行。セミナー後半には少人数でグループに分かれ、与えられたテーマに基づいてディスカッション。そこで出た疑問やアイデアは再び全体に持ち寄って講師が解説し、理解を深めるという双方向型の学びが特徴的でした。

「生徒同士の学習意欲を高めるための工夫」が評価され、参加者からは「他の人の質問や考え方が学べるので勉強の幅が広がった」と好評でした。

(2) 教育者向けWebinar「生徒の“なぜ”を引き出す指導法」

学校・塾の先生や教育関係者を対象

数学嫌いの生徒にどうアプローチするか、生徒の好奇心をどう育てるか、というテーマで情報交換。アクティブラーニングの事例紹介や、具体的な教材作りのコツ、オンラインと対面のハイブリッド授業の実践報告など内容は多岐にわたりました。「問題を解くだけではなく、“考えるプロセス”をどう可視化するか？」など、数学教育で課題になりがちな点を深掘りするセッションは特に盛り上がりました。

3. 取り組みの成果と今後の展望

<YouTubeでの学習普及>

オンライン上の無料コンテンツが充実したことで、自宅学習や地方在住の生徒、経済的に学習塾に通えない人への学習機会が拡大。「どこに住んでいても質の高い授業に触れられる」姿が少しずつ定着してきました。またこども食堂にくる子どもも弊団体のyoutubeを見ていて、質問に来たりなど徐々に地元にも定着してきた。今後は、佐賀県内のこども食堂とも連携しさらなる定着に向けて活動を行う。

<オンラインセミナーの利点再確認>

対面では難しい「場所や時間の制約」を超えて、佐賀県内の生徒や先生と結びつけられる強みが改めて感じられました。一方で、オフライン勉強会や合宿のように「直接会って学ぶ価値」も根強い人気があることがわかり、オンラインとオフラインのハイブリッドがますます重要になると考えられます。佐賀県内の施設などとも連携し進める。

<教育格差解消への意識高揚>

活動を通じて、多くの受講者や保護者から「ネット環境さえあれば誰でも学べる」「地域による教育資源の差が小さくなる」といった前向きな意見が寄せられました。今後はさらに幅広い学習サポートや講座を拡充し、色々な仕組みづくりなどにも力を入れていく予定です。

E 小学生英語ドリル開発

<1 開発の背景>

現在、日本の大都市圏（東京、大阪など）では、幼少期から小学生、さらには高校生から大人までを対象とした多様な英語学習スクールやカリキュラムが整備されており、学習機会が豊富にあります。しかし、佐賀県内では同様の環境が整っておらず、特に幼少期から小学生を対象とした英語教育の場が非常に限られているのが現状です。

さらに、英語の文法を学ぶ機会も少なく、家庭の経済的負担が大きいため、学習を継続することが困難な家庭も少なくありません。加えて、英語学習に対する関心があっても、適切な学習教材が不足していることも課題の一つとなっています。

こうした課題を解決するために、本年度、小学生向けの英語ドリルを開発しました。本ドリルの開発を通じて、佐賀県内の児童がより楽しく、効果的に英語学習に取り組める環境を整えることを目指しています。

<2. ドリルの特徴>

本ドリルは、小学生が取り組みやすいように、以下の工夫を施しました。

(1) アニメーション動画の活用

一般的な学習映像では大人の講師が登場することが多いですが、本ドリルではアニメーション動画を採用しました。これにより、子どもたちが親しみを持ちやすく、学習への興味を引き出しやすくなっています。視覚的に魅力的なキャラクターを用いることで、英語に対する抵抗感を軽減し、学習のモチベーションを高める効果が期待されます。

(2) 全漢字にルビを付与

低学年の児童の中には、漢字が読めないために学習の進行が妨げられることがあります。そこで、本ドリルではすべての漢字にルビ（ふりがな）を付与し、どの学年の児童でもスムーズに学習を進められるよう配慮しました。これにより、低学年の児童でも無理なく英語学習を進めることができます。

(3) 解説動画と連携

問題を解く際に手が止まらないよう、講師の解説動画を見ながら解ける設計としました。これにより、児童の集中力を維持し、学習への意欲を持続させることができます。また、児童がわからない部分をその場で解決できるようにすることで、学習の継続率向上にも寄与します。

<3. 今後の展開>

本ドリルは、今後、佐賀県内の子ども食堂にも配布する予定です。これにより、家庭の経済状況に関わらず、より多くの子どもたちが英語学習に取り組める環境を整えていきます。また、学校や学習塾と連携し、ドリルの活用を促進するためのワークショップやセミナーを実施する計画もあります。これにより、教育現場での活用方法を明確にし、より効果的な学習を支援していきます。

さらに、デジタル化にも対応し、オンラインで学習できるバージョンの開発も検討中です。タブレットやスマートフォンを活用した学習を可能にし、児童が場所を選ばずに学べるような環境を提供することを目指します。

事業報告の附属明細書（令和5年3月1日～令和6年2月28日）

1. 事業報告の内容を補足する重要な事項 該当なし

以上